

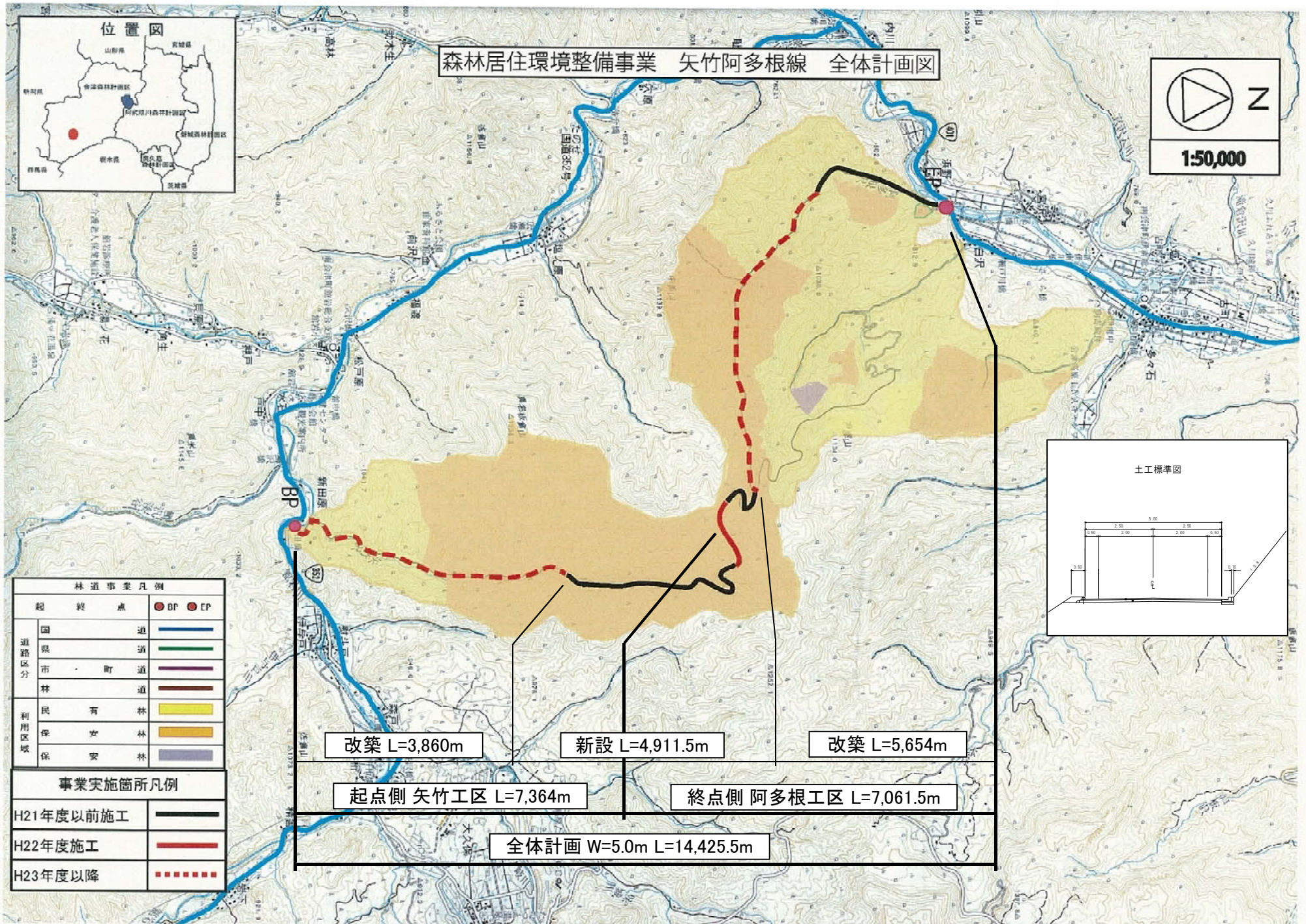
平成22年度事業別評価調書（チェックリスト）

整理番号	208	事業名	森林居住環境整備事業 (森林基幹道整備)		補助 単独	地区名 (事業箇所名)	やたけあたね 矢竹阿多根 線		関係 市町村名	南会津町	担当部(局) 課名	農林水産部 林道整備課											
評価の対象となる理由	第3条第1項(3) 事業採択から一定期間経過し継続中の事業					前回(平成 年度)評価時 の対応方針	委員会からの提言: - 付帯意見: -		県の対応方針: -														
事業根拠法・要綱等の名称	森林法第4条、同第193条、 森林法施行令第2条の2																						
事業 の 概 要	【事業目的及び全体計画】※[ ]: 事業採択時 (1) 事業目的 南会津町の広域な森林における骨格的な林道として、森林施業の効率化による生産性の向上と、 適正な森林整備の促進による公益的機能の高度発揮の基礎となるほか、山村地域の生活環境の改 善に資することを目的とする。 (2) 全体計画 [13,960] 車道幅員 4.0(5.0)m 延長 14,426m 起点 南会津町熨斗戸字新坂地内 終点 南会津町白沢字沼ノ平地内																						
	事業の採択年度	H12	完成目標年度	[H21] H25	用地着手年度	-	工事着手年度	H13															
	事業費 (百万円)	全体事業費 (うち用地費)	これまでの 投資事業費 合計	左の財源内訳又 は負担割合	これまでの年度別投資実績(22年度は見込額である。)																		
	[2,020] 2,260 (-)	1,388 (-)	国 55.0% 県 27.5% 市町村 17.5% その他 -	977 (-)	210 (-)	201 (-)	225 (-)																
進捗率	事業費ベース	61.4%	用地費ベース	- %	その他(整備延長)		35.9%																
事業 の 進 捗 状 況	【整備の状況】 完成延長は5,172m、整備率は35.9%となっている。 なお、未舗装部分を含めた整備延長は11,456m、整備率は79.4%である。 【事業実施上の課題や問題点、今後の事業見通し】 実施測量・設計の結果により新設区間の延長466mが増となった。また、改築区間においては 希少植物の生息地の回避に加え、岩盤の著しい風化による崩落の危険性を避けるため、線形を移動 する必要が生じ、それに伴い土留構造物を大幅に追加したことなどから、全体事業費の増と工期の 延長が必要となった。新設区間の工事は平成22年度で完了することから、コスト削減に努めなが ら、予定の事業期間内での完了を図る。 みなし執行額=全体事業費/全工期×経過年数=2,260百万円/14年×10年 = 1,614百万円 みなし進捗率=これまでの投資事業費計/みなし執行額=1,388百万円/1,614百万円 = 86.0% 【関連事業の進捗状況】 特になし																						
	【事業に関する社会経済情勢】(特記すべき事項) (1) 現在の状況 本路線沿線の森林は、水源地域として約6割が水源かん養保安林に指定されている。さらに、近 年、森林には地球温暖化防止や自然環境の保全など、公益的な機能の発揮が従来にも増して強く求 められていることから、適切な森林整備を促進するための活用基盤として林道を整備する必要があ る。このような状況の中、本林道の整備区域においては、旧森林開発公団造林による水源林の整備 などを主体に森林整備が積極的に進められている。 (2) 変化の有無 有(無) (3) 変化の内容 - (4) 地域の協力体制等 当該路線は、町及び受益者とも事業採択後も一貫して開設に対する要望も強く、工事の実施や用 地の使用承諾についても非常に協力的である。																						
	【事業に関連する評価指標等】 (1) 主要な評価指標の変化																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事 項</th> <th>事業採択時</th> <th>今回評価時</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用区域面積(ha)</td> <td>2,029</td> <td>2,029</td> <td>採択要件500以上</td> </tr> <tr> <td>開設効果指数</td> <td>2.61</td> <td>3.91</td> <td>採択要件1.2以上</td> </tr> </tbody> </table>				事 項	事業採択時	今回評価時	備 考	利用区域面積(ha)	2,029	2,029	採択要件500以上	開設効果指数	2.61	3.91	採択要件1.2以上	(注1) 開設効果指数とは林道開設に必要な森林資源を有しているかを数値化したものである。 (注2) 利用区域内の森林所有者数: 97名 (2) その他特記すべき事項 特になし 【環境への影響等】 希少野生動植物の情報に基づく対応 実施・未実施 (1) 環境への影響内容とその対策 木材製品の積極的な活用や法面緑化について木本類を主とした在来種にするなど、周辺環境へ配 慮しながら工事を進めている。 また、希少植物が確認されたことから、実施測量時に配慮した線形とすることにより、影響の無 いよう慎重に工事を進めている。 (2) その他特記すべき事項 特になし						
事 項	事業採択時	今回評価時	備 考																				
利用区域面積(ha)	2,029	2,029	採択要件500以上																				
開設効果指数	2.61	3.91	採択要件1.2以上																				
評 価						A、 B、 C			評 価			A、 B、 C											

平成 22 年度事業別評価調書（チェックリスト）

地元住民・受益対象者及び関係機関の意向	<p><b>【地元住民・受益対象者の意向】</b></p> <p>(1) 事業採択時の状況 森林所有者をはじめ地元受益者が当該林道の早期開通に向けての運動を展開するなど、地元から強い要望が出された。</p> <p>(2) 評価実施時の状況 地元住民に対する工事計画説明会等で、事業採択時に早期完成を求める強い要望が地元から継続してなされている。</p> <p><b>【関係機関・団体の意向】</b></p> <p>(1) 事業採択時の状況 南会津町から、広範な森林資源の利活用が図られるほか、利用区域の約 6 割を占める保安林の適正な維持管理を効果的に実施し、当該地域の森林の持つ多面的機能をより一層充実するために林道新規開設の強い要望が県に対してなされた。</p> <p>(2) 評価実施時の状況 南会津町より早期完成を目指した事業実施要望がなされている。</p>	計画変更の必要性・コスト縮減や代替案立案等の可能性	<p><b>【計画変更の必要性】</b></p> <p>(1) 必要性の有無 有 ・ 無</p> <p>(2) 計画変更の理由及び内容</p> <p><b>【代替案立案の可能性】</b> 本路線は森林資源の活用を図るため骨格的な林道であり、代替案の可能性はない。</p> <p><b>【コスト縮減の取組等（特記すべき事項）】</b> 地形に即した路線配置を基本として、土工量と切取法面の縮減に努め、残土を可能な限り現場内処理するとともに、構造物を最小限にするなどコストの縮減を図っている。</p>				
	評価	A、 B、 C	A、 B、 C				
費用対効果分析等の要因の変化	<p><b>【費用対効果分析等】</b></p> <p>(1) 手法 「林野公共事業における事前評価の手引き」（平成 19 年版） 「林野公共事業における事前評価の手法について」 （H21. 3. 31 林整計第 246 号林野庁森林整備部計画課長通達）に基づく。</p> <p>(2) 費用対効果の変化 [当初計画時] [今回評価時] B / C = <math>\frac{1,880 \text{ 百万円}}{1,660 \text{ 百万円}} = 1.13</math>     B / C = <math>\frac{2,569 \text{ 百万円}}{2,379 \text{ 百万円}} = 1.08</math></p> <p><b>【費用の変化等で特記すべき事項】</b> 事業量変更 240 百万（実施測量による計画延長の変更等に伴う増額）</p> <p><b>【需要効果の変化等で特記すべき事項】</b> 間伐等の森林整備の実績が増えたことによる森林整備等の便益額の増加。</p>	総合評価	<p><b>【総合評価と対応方針案】</b></p> <p>(1) 総合評価 適正な森林整備に必要不可欠な路線であり、また、今後は計画的な事業実施が見込まれ、さらには、地元より早期完成の強い要望もあることから継続して実施する必要がある。</p> <p>(2) 対応方針及び今後の事業の進め方</p> <table border="1"> <tr> <td>対応方針案</td> <td>事業継続</td> </tr> <tr> <td>今後の事業の進め方</td> <td>今後も引き続きコスト縮減に努めるとともに、地元住民や受益者等の意向を踏まえ事業進捗に努め、目標年度内での完成を図る。</td> </tr> </table> <p>(3) 事業見直し継続、休止、中止する場合の対応</p> <p style="text-align: center;">-</p>	対応方針案	事業継続	今後の事業の進め方	今後も引き続きコスト縮減に努めるとともに、地元住民や受益者等の意向を踏まえ事業進捗に努め、目標年度内での完成を図る。
	対応方針案		事業継続				
今後の事業の進め方	今後も引き続きコスト縮減に努めるとともに、地元住民や受益者等の意向を踏まえ事業進捗に努め、目標年度内での完成を図る。						
評価	A、 B、 C	A、 B、 C					





(別紙)

## 費用対効果分析

森林居住環境整備事業（森林基幹道整備） 矢竹阿多根線

$$\frac{\text{便益 } B}{\text{費用 } C} = \frac{B① + B② + B③ + B④ + B⑤}{C① + C②}$$

## [費用項目]

C①：当該路線の工事期間中に要する事業費

C②：当該路線の評価期間内に要する維持管理費（該各市町村の林道維持管理費の実績平均値を基に算出）

## [効果項目]

B①：木材生産便益

・林道の整備による、木材搬出経費の縮減、同経費の縮減による間伐材利用量の増加、主伐期木材生産量の増加に係る便益額。

B②：森林整備経費縮減等便益

・林道の整備による、森林施業地点への作業員の歩行・資材運搬等経費の縮減、治山事業実施のコスト縮減、森林管理のための巡視等の歩行時間の縮減、適正な森林整備推進による公益的機能の増大に係る便益額。

B③：森林の総合利用便益

・林道の整備による、森林の保健休養利用時の車両走行経費の縮減、市民と森林とのふれあい機会の創出、キノコ栽培等副産物の生産量確保に係る便益額。

B④：災害等軽減便益

・林道の整備による、自然災害時の公道迂回路としての車両走行経費の縮減に係る便益額。

B⑤：その他の便益

・林道の整備による、森林整備等ボランティア確保、森林内施設の維持管理経費縮減に係る便益額。

## [考え方]

工事期間と完成後40年間に生ずる効果額、費用額を現在価値化して比較する。

計算例	B①	B②	B③	B④	B⑤			
	1,246,667	+ 1,184,390	+ 8,728	+ 106,446	+ 23,251			
		2,377,085	+ 1,767			=	$\frac{2,569,482}{2,378,852}$	= 1.08
		C①	C②					